

コロナ禍に創業してから5年 意気軒昂な「Stand up」に注目!

千葉県市川市に本社を構える株式会社Stand upは、2020年7月にスタンバイ株式会社から独立した石井友之氏が創業したメーカー。スタンバイの事業を一部引き継ぎつつ、Stand up独自の事業も展開し、昨年9月に同社から伊藤博之氏に加わり新たなプライズマシンの開発・販売も積極的に行うなど勢いを増している。今回は両氏に同社の事業内容や今後の展望についてお話を伺った。

「Stand up」の製品で 少しでも業界の底上げに貢献を!

株式会社Stand upは2020年7月に創業し、クレーンゲーム機を始めとしたゲーム機の販売・買取や運営・企画、アミューズメント施設の運営などを行っている。同社の代表取締役を務める石井友之氏とエグゼクティブスーパーバイザーを務める伊藤博之氏は、共にスタンバイ株式会社に所属していた。同

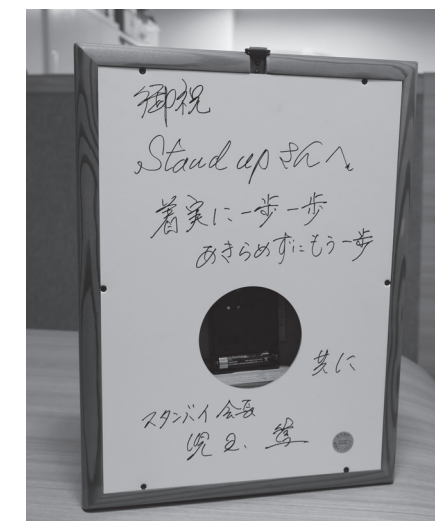


株式会社Stand up エグゼクティブスーパーバイザー伊藤博之氏（写真左）と代表取締役の石井友之氏（写真右）

社の創業について石井氏は、創業の2020年が新型コロナウイルスの影響を強烈に受けていた時期であることを背景に、クレーンゲーム機に苦しみスタンバイにおいて、クレーンゲーム機の運営の継続を願って会社と協議。その結果、会社を分割する形で合意し、株式会社Stand upが誕生したと話している。

社名である「Stand up」というネーミングは、(株)サードプラネットの代表取締役社長であり、スタンバイの会長でもある児玉篤氏が命名したとのこと。スタンバイから巣立ち、立ち上がったという意味が込められているという。こうして創業されたStand upは、スタンバイのクレーンゲーム事業を引き継ぐ形でスタート。様々な事業展開を模索しつつ、店舗運営では無人店舗の「nicomaru」(にこまる)、有人店舗の「nicomaru+」(にこまるプラス)を展開。埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県などで合わせて11店舗を展開しており、今後も拡大を予定している。

製品販売では、2024年9月にエグゼクティブスーパーバイザーとして伊藤氏を迎えたことで、スタンバイ製品の販売や各種ゲーム機の中古販売・レンタルといったそれまでの事業に加え、同



創業時に児玉氏から贈られたという時計の裏には、児玉氏から祝福と激励のこもった直筆のメッセージが添えられていた

社オリジナル製品の開発・販売をスタート。オリジナル製品の第一弾として「JARRICRE」(ジャリクレ)を発売した。「ジャリクレ」の製造元である「JARRIVE」(ジャリーブ)は石井氏が代表を務める別会社であり、「ジャリクレ」は(株)アレスカンパニーの依頼で製造したとのこと。そして、(株)フォロームを含めた3社(アレスカンパニー、フォローム、Stand up)で協力して販売を行ったことで日本全国をカバーし、その結果「ジャリクレ」は全国多数の店舗に導入される人気機種となった。そこからさらに新たな製品の製造に着手し、Stand upとして実質第一弾に当たる「MAGIC CLAW」(マジッククロー)を発売。続けて、第三弾の「ブロッククレーン」(仮称)も発売を間近に控えている。さらに、この後にも発表・販売を控えている新製品が複数あるように、石井氏、伊藤氏ともに2025年は勢いの一年だったと口を揃えていた。

アミューズメント業界で20年以上のキャリアを持ち、(株)アトラスやスタンバイなどで多数のクレーン機製作などに関わってきた実績を持つ石井氏と伊藤氏を中心とした製品作りは信頼も高く、現在発売中の製品はもちろん、今後発売される新製品においてもクオリティ面の新配はなさそうだった。ただ、同社は現在クレーンゲームを主軸に製品製造を行っているが、今後クレーンゲームを中心にいくわけではなく、一時期の加熱状態から落ち着いたように見えるが、現在もクレーンゲームの只中であることを前提として、そのクレーンゲームが終わることに對する危機感を持っていると石井氏は話し、「もしクレーンゲームが終わるとしても、クレーンゲームが完全に下落トレンドになるまでには2年ほど猶予があるだろうと思っています。ですので、出せるものはスピード感を持って出していきたいと考えていますし、現在当社は製品の製造販売と共にクレーンゲームの運営も行っており、複数の事業を活かして上手にリスク分散しながら生き残る会社にしていきます」と話していた。

態からは落ち着いたように見えるが、現在もクレーンゲームの只中であることを前提として、そのクレーンゲームが終わることに對する危機感を持っていると石井氏は話し、「もしクレーンゲームが終わるとしても、クレーンゲームが完全に下落トレンドになるまでには2年ほど猶予があるだろうと思っています。ですので、出せるものはスピード感を持って出していきたいと考えていますし、現在当社は製品の製造販売と共にクレーンゲームの運営も行っており、複数の事業を活かして上手にリスク分散をしながら生き残る会社にしていきます」と話していた。

めることなどを挙げており、純粋に企業力の向上が見込めるように。そうした企業としての動きも含めて、石井氏に今後の展望を伺うと、「まずはあと3年を目標に、弊社がメーカーとしてのポジションをしっかりと確立して、新しいものをアミューズメント業界に広げていき、クレーンゲームで製品を見かけた際に「Stand upの製品だ」ということを認知されるようなメーカーにしたいですね。そうして我々が関係する製品がいろいろな場所に存在し、それが結果的に業界全体の底上げに少しでも役立つように嬉しく思います。ですので、まずはメーカー色を強めて、良い製品をどんどん出していき、これが展望になります」と石井氏は熱く語り、伊藤氏は「私は昔から一貫して同じ思いなので変わっていませんが、オンラインワンの製品を作りたいと常日頃から考えています。他の会社さんが作っていないような製品を世の中に出したい。とにかく面白いことをやりたいんですよ。だから、これからも弊社が発売する製品に期待していただけると嬉しいですよ」と力強く宣言。また、11月14・15日に開催される「アミューズメントエキスポ2025」にも初出展が決定している。今回紹介している製品の他にも、最新クレーン機などの出展を予定しており、会場でもオペレーターへの注目を存在と

●オリジナルブランド店舗

『nicomaru (にこまる)』

『nicomaru+ (にこまるプラス)』



無人店舗「nicomaru (にこまる)」と有人店舗「nicomaru+ (にこまるプラス)」を、埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県といった地域で合計11店舗を展開。地域や店舗に合わせた製品を導入している。今後もこれら店舗運営の拡大は視野に入れているとのこと。写真は「nicomaru+ ユーカリが丘店」の様子

●ブロッククレーン(仮称)



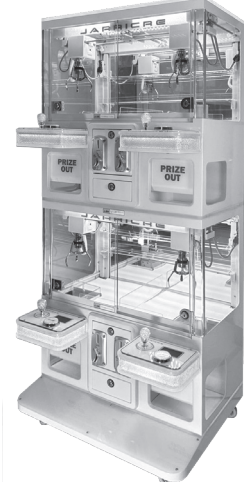
Stand up オリジナル製品第三弾となる本機は、ミニクレーン機、クリップ式プライズ機、ボタン式カプセルベンダー、ショーケースの4種のユニットを自由に組み合わせ構築できるプライズ機。4種のユニットをバランスよく並べるオーソドックスな使い方はもちろん、各ユニットだけでまとめてコーナー化するということもできる。また、積み上げた上方をすべてショーケースにしてインパクトあるコーナー作りなどもでき、場所と使い方で自由度の高い運用が可能となる。

●MAGIC CLAW(マジッククロー)



4サテライトクレーン機で、各サテライトに2本のアームを搭載したStand up 第二弾となるオリジナル製品。最大の特徴は既出の通り各サテライトに搭載されている2本のアーム。前後の移動は2本同時に行い、左右の移動は個別に行うことができる。小さいお菓子やマスコットのような小型景品であれば複数個獲得の期待があり、片方のアームで獲得できなくても、もう片方のアームで獲得できるかも、という期待感もある。店舗ごとにビルボードなどのカスタマイズも可能で、使用景品や設置場所に合わせた使い方ができる。

●JARRICRE(ジャリクレ)



4サテライトクレーン機で、後発故に低価格かつ高品質を目指して製作されたクレーン機。本機の特徴はRGBで17万色のカラー変更で、グラデーションや点滅などの選択も可能なLEDライトに、高利便性の読み込み式コインセクター。交換可能なアームのバリエーション。一定回数景品が獲得できなかった際にフリープレイとなる救済機能(デフォルトではオフ)など。こうした多機能かつ汎用性の高さで低価格が人気を集めている。Stand upとしては実質オリジナル製品の第一弾。

トナーとなり得る企業を探しており、そこに適合したのが第一コーポレーションだったという。石井氏によると、子会社化によるStand upとしての事業内容、製品開発におけるスタンスが変わることはなく、変化があるとするれば、今後さらにスピード感を持った製品開発が可能になることや、第一コーポレーションと協力できることで、さらなる販路の拡大が見込